

10代の若者に学ぶ

私には、質の高い表現力で注目している若者がいる。史上最年少14歳でプロ入り以来、デビュー後の29連勝に始まる快進撃で、次々と最年少記録を更新している、藤井聡太三冠(九段・19歳)。将棋といえば、村田英雄の歌う『王将／ふけばとぶような将棋の駒に…』ぐらいしか知らなかったが、彼のインタビュー時の驚異の語彙力に魅了されたのだ。

例えば、

- **僥倖(ぎょうこう)** としか言いようがない：思いがけない幸運
- **茫洋(ぼうよう)** としていて：広々としていさま、広くて見当のつかないさま
- **望外(ぼうがい)** の結果：望んでいた以上にいいこと(さま)

私はすぐさま辞書を引き、これらの言葉の意味を調べた。その後も彼は、「特別な感慨」「序盤で形勢を損ねてしまう」「嬉しい反面、**気恥ずかしい**気持ち」「将棋はどんな戦型も**途轍(とてつ)もなく深い**」などの言葉を用いて将棋を語る。質問をしっかりと受け止め、決して流暢でないが一語一語をかみしめる語り口は、聞くものの心に響く。

今や「やばい」は、多くのシチュエーションに使われる万能語として使用されているが、あまりにも味気ない。日本語は「かなしい」の一語でも、「悲嘆に暮れる」「心を痛める」など様々な表現ができる。

大人たるもの、自分の思いや状況を伝えられる言葉の引き出しを用意しておきたいものである。



山橋由貴子 [やまはしゆきこ]
(公社)「小さな親切」運動本部
専務理事兼事務局長

神奈川県横浜市出身。茅誠司初代代表の在任時に入社し、親切運動ひとすじ40数年。ダジャレと愛犬の「イヴちゃん」(ミニチュアシュナウザー)をこよなく愛する。好きな食べ物は「うなぎ」。

イラスト：安彦麻理絵 [あびこまりえ]
漫画家・エッセイスト。山形県新庄市出身。
女性の本音を赤裸々に描く作風が人気。